

環境共生地域学特論Ⅰ（2単位）

担当者氏名 濱野周泰

◆学習・教育目標

現代社会は、地域温暖化や環境汚染など生活環境の悪化が進行し、地球全体の生態系や人々の健康が大きく懸念されている。このような地球と生命を脅かす問題解決の方策のひとつとして「環境共生社会の実現」が求められている。本専攻の特性として、環境・自然・資源と生物の共生を果たすため、自然科学、社会科学、人文科学を融合した新しい切り口で総合的に研究を進めることがある。

本専攻の社会人院生には、実務の中で培ってきた知識や技術や経験を踏まえ研究力アップを図るべくサポートしたい。環境共生社会の実現に繋がる成果（博士論文）の完成に向けての適切なアドバイスを目指す。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

生態分布	環境思想	景観	ランドスケープ
自然共生	環境共生	地域共生	地域活性化

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	環境と生物	環境と生物の関係、生物による環境形成	授業内容を各自の論文テーマに対応させて掘り下げる
2	生態分布	生物の分布と環境の関係	
3	日本の気候と文化	東アジアの気候と日本文化の成り立ち	
4	環境の考え方	環境の捉え方と意識	
5	地域と環境	ランドスケープと地域資源	
6	環境共生の発想	人と自然の時間軸、自然浄化作用、八百万の神	
7	環境教育	野外観察、環境の認識、指標生物、体験	
8	里山の自然再生	農用林、薪炭林、中山間地域、	
9	樹林の造成	生態系、食物連鎖、成帯性のある土壌、森づくり	
10	樹木と樹林の管理	景観重要樹木、遷移のコントロール、多層性	
11	田園の自然再生	水循環、両生類、は虫類、単一栽培	
12	河川の自然再生	護岸整備、堰、多自然型護岸、河道内の攪乱	
13	都市景観の創造	街路樹、都市の緑地、街並み、都市の再生	
14	造園教育	大地、自然素材、快適環境、ライフスタイル	
15	ランドスケープ産業論	地域資源の活用と地域の活性化	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

アメニティデザイン/ 進士五十八 / 学芸出版社（1992）

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

/ / ()

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

当該博士論文のテーマにふさわしいレポート提出により評価する（100%）。

◆その他受講上の注意事項

これまでの知識や技術や経験、そして広い教養、実用的な発想、多角的なものの見方を駆使した新たな考えを期待したい。